

団体名	かわさき自然と共生の会	事業名	梨子ノ木緑地 2024 自然観察会
-----	-------------	-----	-------------------

実施内容	実施結果
6月8日 第1回自然観察会 (植物観察と保全ワーク)	→第1回 参加者数のべ46名/アンケート回答者数39名
9月14日 第2回自然観察会 (昆虫観察と保全ワーク)	→第2回 参加者数のべ22名/アンケート回答者数19名
11月9日 第3回自然観察会 (カントリーハッジ作りと保全ワーク)	→第3回 参加者数のべ52名/アンケート回答者数44名
1月26日 第4回自然観察会 (野鳥観察会と保全ワーク)	→第4回 参加者数のべ18名/アンケート回答者数14名
2月23日 第5回自然観察会 (シイタケ菌打ち込みとしっぽ取りゲーム)	→第5回 参加者数のべ19名/アンケート回答者数15名
アンケートの内容	のべ参加者数157名のうち、回答した方は131名
Q1 ここを前から知っていましたか? YES 目標50%以上	→Q1 回答数129名、YESの数18名 14%
Q2 おもしろかったですか? YES 目標80%以上	→Q2 回答数121名、YESの数119名 98%
Q3 また参加したいですか? YES 目標60%以上	→Q3 回答数105名、YESの数51名 49%
Q4 説明は分かりやすかったですか? YES 目標80%以上	→Q4 回答数110名、YESの数98名 93%
Q5 観察道具はうまく使えましたか? YES 目標70%以上	→Q5 回答数110名、YESの数85名 77%

写真	課題と展望
	<p>設立後 20 年以上を経過し、最大 140 名を数えた創設当時の会員は大半が姿を消し、2024 年度では 46 名を数えるみとなった。この現状を打破すべく、こどもをターゲットに自然観察会を実施し、その保護者達の掘り起こしを試みた。5 回の観察会は成功裏に終わったと自負しているが、参加者は延べ 150 人を超えたにもかかわらず、梨子ノ木緑地の活動の担い手となる後継者を発掘するに至っていない。</p> <p>2024 年度の最後のイベント(シイタケ植菌会)が 2 月 23 日までであり、その準備に忙殺され、2025 年度の計画がいまだに議論されず、助成金申請締め切りに間に合わなかった。</p> <p>2025 年度の活動に助成金なしで取り組むことになるが、2026 年に向けて体制を整えて助成金の継続確保を目指したい。</p>

団体名	多摩川の会(多摩川と周辺の環境を考える多摩区の会)	事業名	多摩川を知る(学習会・見学会)
-----	---------------------------	-----	-----------------

実施内容	実施結果
------	------

2019年10月の台風19号による多摩川の増水と内水氾濫により、多摩区菅稲田堤3丁目付近では1m以上の内水氾濫が発生した。そのために、被災された方々や多摩川周辺の住民で、多摩川とその周辺の環境や防災について学習して行くことを始めた。

本会は2020年7月から活動し(運営委員会を組織)、多摩川とその周辺の環境や防災についての理解を深めることを目的に2021年4月に正式に発足して、様々な学習会や見学会を実施してきた。(学習会14回・見学会11回・懇談会16回～延べ参加者約630人、運営委員会45回、「多摩川の会ニュース」発行:1～24号)

<学習会>

- ①「多摩川における流域治水」 6月29日 多摩市民館にて 参加者26名  
講師:中山幸男氏(元国交省職員)
- ②「川崎市の地形・地質と斜面災害」 10月20日 多摩市民館にて 参加者16名  
講師:小倉章氏(地盤品質判定士)

<見学会>

- ①「多摩川の堤防を歩くii」 9月22日 幸区～川崎区 参加者13名  
講師:中山幸男氏(元国交省職員)
- ②「大丸用水を歩くiii」 12月15日 稲田堤～中野島 参加者26名  
講師:中村和樹氏(ミューラボ)

写真	課題と展望
----	-------



- \* 流域治水と水利を主テーマにした、学習会・見学会・懇談会を実施する。  
そのために、HPやニュースなどを活用して市民の参加を募る。
- \* 関連団体や行政との交流・懇談・交渉を通じ、市民との連帯を深める。
- \* 行事参加者の理解を深め、次回の周知と内容を紹介(チラシやニュース)し、30名ほどの参加者と満足度80%をめざす。
- \* 2024年度は「5年間の活動のあゆみ」を冊子にまとめた(A4判 両面カラー 120ページ・70部)ので、これからは10年目を目標に将来への展望と総括として、『多摩川と周辺の防災教本(仮題)』の刊行をめざしその準備をする。

団体名	ここにわ	事業名	若者カフェ
-----	------	-----	-------

実施内容	実施結果
------	------

■若者カフェ

若者、特に生きづらさを感じている若者を対象に若者カフェを開催。参加者が食事をし、お茶を飲みながらゆったりとくつろぎ、いろいろな世代、立場の人と気兼ねなく交流し、相互に認め合い、エンパワメントし合える場をめざしています。そのため、若者だけでなく、どの世代でも参加できることとしています。

○日時 2024年4月～2025年3月の毎月第4土曜日、13:00～15:30 全12回

○会場 コミュニティカフェ「メサグランデ」

○ここにわスタッフやファシリテータ、支援者は、支援し、若者を気遣う立場ではあるけれど、あくまでも若者と対等なフラットな関係でありたいと考えています。

■小さな一歩企画

若者の意思を確認しながら他団体の企画と連携したり、参加者のちょっとした希望や思い付きを生かして、「参加」から「参画」へと小さな一歩を経験できる事業を実施する予定でした。

■若者カフェ

延べ12回実施 参加人数 延べ162人

■小さな一歩企画

昨年に引き続き、ある障害者団体の日帰り旅行に、車いす介護などのボランティアとして湊4人参加。新たに同団体の新年会に2人参加しました。

参加者のちょっとした希望や思い付きを生かしてのイベントは実施に至りませんでした。

しかし、「一人暮らしのために料理が出来たらいい」「生活費がうまく運用できず、若者カフェの参加費が払えない」などの声を受け止め、2025年度に新たに「プチ調理ボランティア」と銘打って、参加の方には交通費補助として参加費の相当する200円を支給することとしましたが、若者カフェ自体を終了することとなり、実施に至りませんでした。

写真	課題と展望
----	-------



この3月、諸事情により、若者カフェを休止することになりました。

休止にあたっては、会員個人の事情や会の運営上の問題もありましたが、今後、市民活動団体の運営や居場所事業について、改めて考えていきたいと思っています。

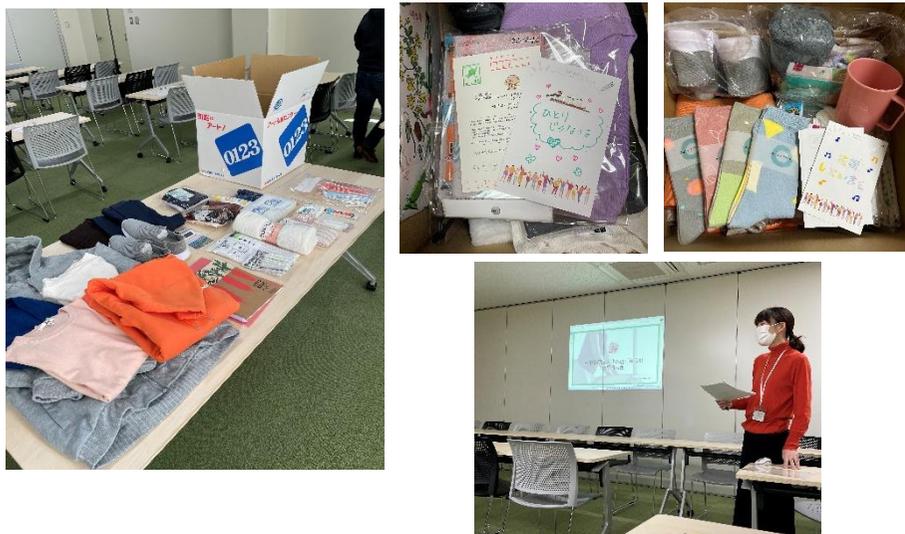
団体名	一般社団法人 Thoughtful Gift	事業名	ソースフルギフト・プロジェクト
-----	------------------------	-----	-----------------

実施内容	実施結果
------	------

- ① **入院物資の送付**: 精神科に入院される方のうち、ご家族と疎遠や協力を得られない方、独居の方など入院中に必要な衣類・日用品を揃えられない方からの依頼を受け、無償で必要な物をお送りしました。物品は企業や他 NPO 団体からの寄付、足りない物は購入して揃えました。
- ② **活動報告会**: ソースフルギフト・プロジェクトの活動内容をご説明しながら「精神疾患を話題としにくいと感じている社会の価値観を川崎市から変えていきたい」という目的のため、年4回(四半期ごと)多摩区生田出張所で事業報告会を開催しました。  
内容: 依頼件数、依頼理由、寄付受付数、ボランティアメンバーの活動内容、地域向けイベントへの出展報告など

- ③ **入院物資の送付**: 月平均15.6件、年間187件の依頼に対応しました。
- ④ **活動報告会**: 事業報告会は、主に川崎市民、川崎市の企業、活動に興味がある方ならどなたでも参加可能としまして、近隣で活動されている家族会、あやめ会会員やボランティア希望の方が参加されました。合計15名の参加がありました。

写真	課題と展望
----	-------



- ⑤ **入院物資の送付**: 課題としては、想定より多くの依頼があり、依頼はいただいたものの、お送りできない不足物資が出てきました。毎週発送という頻度に対して、発送ボランティアさんも不足していました。  
今後の展望としては、不足物資、寄付の偏り、活動の頻度を考慮すると、一人一箱送る個別対応より、頂いている寄付をどう効率よく配布していくかを考えたいと思います、一度にたくさんの方に選んでいただく「えらんでマルシェ」を病院などで開催する活動を中心に方向転換を行いたいと思います。
- ⑥ **活動報告会**: 毎週の発送に対応するため、報告会の準備や PR に十分に注力できなかったところがあるので、複数年参加しているかわさき市民活動センター主催の「ごえん楽市」のような多くの方が来場するイベントで活動報告会を行い、たくさんの方に活動を知っていただきたいと考えています。

団体名	ホットスペース・和	事業名	居場所づくり
-----	-----------	-----	--------

実施内容	実施結果
<p>◇食事つき居場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時:2024年4月～2025年3月21日 15時～29時(夕飯17時～)</li> <li>・場所:蔵敷自治会館 第2木曜日 稗原団地自治会館 第4金曜日</li> <li>・実施回数:24回(2会場×12ヶ月) ・利用人数:各回70名</li> <li>・費用:子ども無料、大人200円</li> </ul> <p>◇おやつつき居場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時:2024年4月～2025年3月 13時～17時(おやつ15時～)</li> <li>・場所:蔵敷自治会館 ・実施回数:年間42回</li> <li>・費用:無料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事つき居場所は、利用者人数の平均は92名ですが、夏休み中の8月第2木曜日は55名の利用となった。この結果は家族や祖父母の家で過ごす子どもが少くない。しかしそのどちらでもない子どもがいることを考える。また123名という回もありました。</li> <li>・稗原団地自治会館に隣接する公園の改修工事に伴い10月～3月は菅生こども文化センターで実施、会場変更による利用者さんへの影響は最小限で済みました。</li> <li>・お友だち同士の利用、複数の家族での利用、保護者が仕事で帰りが遅いこどもの利用、塾帰りのこどもの利用等があるが、食事の際は役割りを外し個人としての姿がありお互い様でいろんな人と交流をしている姿が見られた。</li> </ul>

写真	課題と展望
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的自立・・・バザーやお祭り等に出店し自己資金を捻出していますが、厳しい現状があります。</li> <li>・こどもの不安な気持ちを聴くこともあり、繊細な心の持ち主の子どもがいることも分かり安心して気持ちを吐露できる環境をつくる。また、支援が必要なこどもの保護者も同様で不安を抱えながら子育てしていることが分かり、話をすることで気持ちを整理し肩の荷を下ろせるような関わりをしていくことで、親子にとって安心できる居場所としていきたい。</li> <li>・子どもに関わる行政や施設・団体と連携ができたことで相談機関ができたこと、また各機関と情報を共有しながら「こどもの最善の利益」を考えることができる。</li> </ul>

団体名	一般社団法人サステナブルマップ	事業名	カワサキ SDGs 推進隊
-----	-----------------	-----	---------------

実施内容	実施結果
------	------

参加者の「やりたい」思いを具現化するため、コンテンツ(イベント等)を追加。川崎港の海洋ツアーを行ったことで、ごみの問題、より海と密接した暮らしをしている地域での課題探究を望む声が多く出た。また商業との結びつきで、大豆ミートを使ったメニュー開発と販売を行った(25/2/28 まで)多種多様な関係構築において重要な出来事となった。麻生、多摩、高津、3区での募集を行ったが、結果として19名:0名:1名の参加となった。デジタルマップ作成については多摩区、高津区の参加者がいないことから情報が薄くなり、当初予定より少ない144拠点となった  
 →上記同様、区ごとの参加者に偏りがあったものの、かるた(絵柄、読み札含む)を子どもたちで作成し、デザイン化。試作品完成

- ・参加者がほぼ麻生区となったが活動全般において提供できた
- ・それぞれの得意分野において涵養できた
- ・活動補助を保護者が率先して行っていただけた
- ・大豆ミートのメニュー開発・販売にて達成した
- ・タウンニュース、JCOM、マイタウンに掲載、他企業側のネット媒体、プレスリリース等
- ・参加者の最高学年が中学校3年生2名
- ・かわさき SDGs 大賞 2024 地域社会部門優秀賞受賞
- ・参加者(推進隊)満足度  
大変良い 75 %  
良い 25 % (n= 12人)

写真	課題と展望
----	-------



同時期で推進隊の募集を行ったが、従前の活動もあり、麻生区に集中した結果となった。活動中期で実施したイベントで追加募集したものの、人数増加がなかった。しかしながら地域イベントへの参加を通じ、高校生や大学生の取り込みが出来たことは今後の活動において重要な関係構築につながったと考える。  
 また、東京都教育委員の事業では2つの小学校で出前授業を行ったこともあり、本活動が川崎市外にも一歩ずつ進んでいる。さらにかわさき SDGs 大賞 地域社会部門優秀賞受賞は今後の活動に弾みがついた。

上記を踏まえ、当初予定していた川崎市全区での展開を図るより、麻生区内でコンテンツを展開、および協賛企業を募ることに集約した活動とすることが、現段階においては事業継続性を踏まえても優先度が高いことが分かった。

団体名	フェローオーケストラ	事業名	第8回チャリティコンサート
-----	------------	-----	---------------

## 実施内容

2025年2月9日、ミューザ川崎 シンフォニーホールにおいて、コントラバス奏者のエディクソン・ルイス氏をお招きして、子どもも大人も楽しめる本格的なクラシックコンサートを開催した。

貧困や障害など様々な背景によって体験活動の機会が限られた子どもたちを積極的に招待し、よりニーズのある子どもたちが音楽に触れる機会を提供した。

また、本事業では、当団で楽器を練習している子どもたち、ならびに協力団体である（一社）エル・システムジャパンの事業で児童養護施設で楽器を練習している子どもたちも出演した。

## 実施結果

本番では、大人644名、子ども（6～18歳）23名、未就学児50名を観客としてお迎えし、渾身の演奏を届けることができた。

貧困、障害、海外にルーツのある子どもを支援している複数の団体を通じて子どもたちやその家族・支援者を招待し、合計25名の方が来場した。

また、演奏者としても12名の子どもたちが一部の曲に参加し、子どもたちが目標に向かって努力し、達成感を感じる機会となった。観客のアンケート回答によると87.5%の方が本コンサートに満足（「大変満足」および「どちらかと言えば満足」を選択した方の合算）する結果となった。

## 写真



## 課題と展望

本コンサートでは、大人も子どもも楽しめるコンサートを目指し、子どもの泣き声などが鑑賞の妨げにならないよう様々な工夫を行ってきたが、アンケートでは一部子どもの泣き声に対する批判的な声も見られた。引き続き両者が楽しめるためのより良い方法を探っていくとともに、より子どもたちがコンサートを楽しめるような選曲やコンテンツの充実化を図りたいと考えている。

また、奏者として参加する子どもたちの数を増やし、より多くの子どもたちがコンサートを通じて音楽の楽しさを感じたり、目標に向けて努力できるような機会をより多く提供していきたい。当団のキッズオーケストラ事業や、協力団体の事業で楽器を練習しているより多くの子どもたちが奏者として参加できるように同じ舞台に立つことも目指していきたい。

団体名	一般社団法人GrowSports	事業名	GrowSportsChallenge～誰でも参加できる大運動会～
-----	------------------	-----	-----------------------------------

**実施内容**

認知イベントは、メインイベント（防災フェス2025）に向けた、認知拡大のために開催したもので、合計2回の実施をしました。

①2月1日(土)@大師公園、②2月8日(土)@大師小学校、対象：幼児～大人

内容として、メインイベントで計測をする「走る、跳ぶ、投げる」の3種目を中心に技術一歩的に伝え学ぶのではなく、「楽しめる」内容で構成した90分間の運動体験を実施しました。

各種運動のコツを誰もが楽しく、わかりやすい内容で行うことで、メインイベントへの参加や運動の楽しさを知ることによって継続的に関われるきっかけ作りになるような時間提供を目指しました。

当初の予定から変更はあったが、実施場所と内容の変更などはあったものの、最終的に「富士通スタジアム川崎」にて、「防災フェス2025」内にブースとして当事業のブースを出店し、50m、立ち幅跳び、ジャベポール投げの3種目について、種目体験と記録計測を実施しました。

参加者の方が、安心して安全に体験できるような参加のハードルを下げた内容で実施しました。また、種目の具体的なアドバイスはもちろん、参加者の方が、不安や緊張を乗り越えられるような言葉がけをスタッフを始め、周囲の応援をしている人から発せられるような工夫（メガホン活用、スタッフから積極的に応援をすることなど）を行いました。参加者は、種目体験、計測後に自身の記録を記載した記録証に計測した記録を記載し、家族で写真を撮影したり自信の記録証を大切に持って帰ることができる場所を設定しました。

**実施結果**

認知イベントの参加人数は下記の通りです。

2月1日(土)場所：大師公園、参加人数：31名  
2月8日(土)場所：大師小学校、参加人数：19名

実際に認知イベントからメインイベントに参加してくれた方も多く、その参加者から「イベントの時に教えてもらったことを家でもやってみた」という声もいただき、継続的な運動機会のきっかけ作りとメインイベントの認知という点では実際値の計測には至っていないが、繋がった事実は確認することができました。

また、運営上、協働いただいた「石勝エクステリア」「大師小学校校庭開放委員」の方から、イベント内容に関して、「子供の時にこんな団体があればもっと運動が好きになっていただきたかもしれない」という声をいただき、今後もこのような催しを開催してほしいとの意見を受けました。

メインイベント当日は、601名の来場者（未就学児からご高齢の方まで）を対象とし、当ブースに89名（アンケート回答者）の参加がありました。

参加者の約2割が普段の生活の中で「スポーツをほとんど行わない」人だったが、参加したほとんどの方から「楽しかった、またやってみたい」などの声をいただきました。また、認知イベント、本イベント（防災フェス2025）主題団体から、来年のイベント実施時に店出依頼を終了段階でお誘いをいただき、助成金活用目的の一つであるステークホルダーとの信頼や関係性を構築することができました。



**課題と展望**

今後の課題として、継続的なスポーツに触れる機会の創出をしていく必要があると考えています。

今回、協働団体として、「川崎フロンターレ」さん、「石勝エクステリア」さんなどの地域の川崎市内で公園やスポーツ施設を管理している団体の方と関係を構築することができたのでこのご縁からさまざまな活動に発展させる必要があると考えています。

具体的に、イベント時のアンケートに、大師エリアでのイベント実施を求める声もあったので、大師エリアで地元根付いた活動をされている「大師ONE博」さんと共同し、大師公園活用をしたきっかけ教室や幼児の運動能力向上イベント、親子参加型イベントなど実施していきます。

また、今回のイベントから、川崎フロンターレさんより、「富士通株式会社」の方をご紹介いただき、「FRONTIERS Field」を使用し、富士通陸上部と一緒に新たなイベントを実施できないか検討しています。

団体名	生田緑地ばら苑ボランティア会	事業名	ばら苑とボランティアの歩み・記録作成とこれからの生田緑地ばら苑を考えたためのシンポジウム
-----	----------------	-----	----------------------------------------------

実施内容	実施結果
------	------

記念誌の発行・・・生田緑地ばら苑の歴史、ボランティアの歩み、ばら苑で見られるバラの画像 850 品種を掲載

ばら苑にゆかりのある、バラ苗販売業者 姫野ばら園 姫野由紀さんによるトークショーを開催

資金集めのためクラウドファンディングを実施

- ・記念誌の郵送 ・ドライフラワーブーケ作り ワークショップ
- ・フェルトで作るバラ(手芸)ワークショップ ・バラの接ぎ木 ワークショップ

記念誌「ばら苑物語」700 部発行

ボランティア会 200 部 CF 返礼 100 部

生田緑地ばら苑 2024 年秋の一般開放期間中 10 月 19 日～11 月 17 日

一般来苑者への配布 合計 300 部

殿堂入りのバラを巡るミニゲームに参加された方、(3 回 × 75 部)

10 月 26 日 14:00～15:00 姫野由紀さんトークショー 記念誌(75 部)

取材協力者・関係者配布 70 部

市内の図書館、神奈川県立図書館からの寄贈依頼あり

タウンニュースや新聞にて広く周知してもらえた

写真	課題と展望
----	-------



フェルトで作るバラ WS



記念誌  
ばら苑物語



姫野由紀さんトークショー



記念誌 配布  
イベント

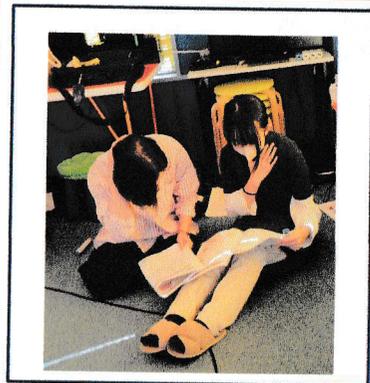
川崎市 建設緑政局みどりの事業調整課による、ばら苑管理運営整備方針の策定が 2025 年度から具体的に進んでいくため、記念誌のデータ情報(歴史と 850 品種のバラ図録)を生田緑地ばら苑の公式ホームページにて紹介してもらえるよう提案する。

今後、ばら苑再整備と新たなミュージアムの一体的な整備が進むことで、ボランティア活動がどうなるのか未確定なことが多い。ボランティア会員以外にも日頃の活動を SNS や WEB 媒体で発信していきたい。

団体名	NPO法人 JAEA (ジャイア)	事業名	アナフィラキシーショック及び突然の心停止から子どもの命を守る緊急対応法の講習事業
-----	-------------------	-----	------------------------------------------

実施内容	実施結果
<p>1) アナフィラキシーショックに関する知識、            エピペン用法(薬事法の解釈・判断基準・投与)            現場での判断についての実践的な解説            ロールプレイの実施</p> <p>2) 最新の救命手当てについての実績的な            解説と実習 &amp; ロールプレイ            ・感染防止のアンビュースクの使用方法について</p>	<p>&lt;実施場所&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・菅生中学校 35名 ・ささのはクラブ(学童保育)15名 ・東小田小学校 30名</li> <li>・Kidhome(学童保育)11名 ・柿生中学校 31名 ・井田こども文化センター 20名</li> <li>・柿の実幼稚園① 28名 ・宮崎子ども文化センター 20名</li> <li>・はじめの一步幼稚園 16名 ・柿の実幼稚園② 30名 ・はじめの一步幼稚園② 17名</li> <li>・エジソン放課後(学童保育)11名 ・南部地域医療センター 42名</li> <li>・野川子ども文化センター 30名 ・西部地域医療センター ① 30名</li> <li>・野川小学校 27名 ・田島支援学校 42名 ・西部地域医療センター ② 28名</li> <li>・田島小学校 34名</li> </ul> <p style="text-align: right;">計497名</p>

写真	課題と展望
----	-------



アンケートの結果を評価すると、80%以上の受講者が、新しい情報を把握していないことが判明しました。毎年、新しく職場に就く新任の職員の殆んどは、重要な情報も認識せず、手当のトレーニングも受けていません。特に、今回の事業で感じたことは、学童保育に従事しているスタッフ＝学童保育を受託している指定管理業者の殆んどが、<子どもの命を守る>ことの重要性を認識していません。助成金により、講習料が無料にもかかわらず、講習開催の依頼がなかったのがその表れです。唯一、“命の安全対策”に熱意を示し、講習開催を行ったのが(株)明日葉という企業だけでした。学童保育の「わくわくプラザ」を受託運営している業者(施設)から1件の申し込みがないのは、由々しき事態と感じました。

団体名	特定非営利活動法人水・防災機構	事業名	多摩川に関する水防災・気象講座 「多摩川めざせ！防災とお天気博士！」の企画及び運営業務
-----	-----------------	-----	------------------------------------------------

**実施内容**

昨今は気象変動に起因する災害が多発しており、巨大台風やいわゆるゲリラ豪雨が多発するなど気象変動に伴って洪水発生危険性が高まっており、川崎市でも多摩川で2019年に大きな洪水が発生し、市内でも下水道を起因とする大きな被害がありました。このため、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で被害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換が進められており、住民が水災害について予め理解を進め、自発的に早めの避難行動を起こすことにより「地域の逃げ遅れゼロを目指す」ための活動の一環で本事業を実施しました。

今年度の事業では、川崎市内59カ所のこども文化センターのうち多摩川の流域にある6カ所のセンターで洪水の仕組みと気象の不思議を学ぶ講座を1回、気象の不思議をより深く学ぶを5回実施しました。本事業により、参加した親子が友人などと知識を共有し、地域全体に理解が広がることを期待しました。

**実施結果**

申請時の事業計画通り、多摩川の流域にある6カ所のセンターで洪水の仕組みと気象の不思議を学ぶ講座を1回、気象の不思議をより深く学ぶを5回実施しました。事業全体での参加者は、子ども161人、保護者73名となり、実施回ごとの増減はありましたが、子ども文化センターの便りやHPなどでの広報を実施したことで、申請時に目標として掲げた概ね150人程度の子どもと保護者50名程度の参加は達成することが出来ました。

参加者へのアンケートでは、参加者数・子ども161人、保護者73人のうち、有効回答が子ども145人、保護者61人を回収できました。全体の感想について5段階評価でアンケートを行った結果では、下位2項目(子ども:全体の感想に関し、「悪かった、とても悪かった」、大人:全体の満足度「不満、大変不満」)は0であったことから、参加人数及び参加者からの満足度を目標値とした指標は達成することができました。

**写真**



**課題と展望**

参加者アンケートからは、短期的アウトカム「理解度」の項目については、講話、洪水の実験、気象の工作毎、対象を子どもと保護者で計測しました。全般を通じて目標を9割近く達成でき概ね成果を上げ、昨年より評価を頂けました。

当日の理解を伝えたいかという項目は、ぜひ伝えたい・伝えたいの回答が子どもで83% (n=145)、保護者で80% (N=61)となり、昨年度より子どもの割合が上昇しましたが、保護者は低下しています。昨年度よりも講話の評価が低下したが、昨年の未就学時が10名に対し29名となったことが要因と考えられ、来年度以降は未就学児まで見据えた内容としてくことを検討したいと思えます。

来年度の助成も視野に、将来的には多摩川流域にある全てのセンターでの講座の開催を目指し、本事業を継続させていきたいと考えています。

なお参加者負担については、非営利活動法人として、本来有料で営利企業が開催する同程度の企画を今後も無料で提供してまいります。

## 2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊	事業名	末長市営住宅「ふれあいルーム」を「まちのひろば」として有効活用するためのプログラム事業
-----	-------------------------	-----	---------------------------------------------

実施内容	実施結果
------	------

末長ふれあいルームを主な会場として市民が集いなくなるイベントに、これまで当団体の活動でつながった芸術家や、講師を招き、有意義な居場所作りのための企画を実施。毎週金曜のみんなでランチを作って食べる会や月に一度のフラを楽しむ会、着物を楽しむ会などは年間通して定期的に開催した。そのほか、「ライアーコンサート」「季節の歌を楽しむ会」「おとえがたりのおはなし会」「人形劇の会」などを実施。年度末には、「まちのひろば祭り」を実施、落語、パントマイム、けん玉などを市営住宅及び、地域の住民の方々を楽しんだ。また、料理教室（ポリビアのおやつ作りは、国際交流センターにて、ブラジルのフェイジョアード作りは、高津市民館にて）も2回開催した。

毎週のランチの会には、毎回市営住宅住民の方々が数人定期的に参加。毎月のフラ、着物の会にも、常連になりつつある市民の方々が参加している。音楽関係のコンサートも好評で、ふれあいルームが満席になるほどの盛況な会となった。また、おとえがたりの影絵には、隣接する保育園の年長児が来訪、人形劇は、講師の保育士とともに保育園に訪問して、保育園児数十人が観覧した。地域の保育園とのつながりもでき、小学校に上がった子どもたちが新学期にふれあいルームに寄ってくれたり、少しずつ地域にも活動が根ざしたものとなっている。

また、まちのひろば祭りも、ふれあいルームいっぱい市営住宅住民が訪れ、落語、パントマイム、けん玉を楽しんだ。市営住宅の高齢者の方々は、自宅から近い場所でこのようなイベントが開催されていることを喜んでいた。

写真	課題と展望
----	-------



恵方巻きを作ろう



↑ライアーコンサート



まちのひろばまつり

←落語

パントマイム→



市営住宅の中で、ふれあいルームでどんな活動をしているのか、わかりにくいという声があった。掲示板が使わせてもらえない、など告知がなかなか難しいが、来年度は、定期的なニュースレターを発行したり、チラシの全戸配布をもっと増やしていく予定。

また、共同運営している「かわさき市民資金」と協働のイベントを定期的に開催したいと考えている。

## 2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	一般社団法人 ICERC Japan	事業名	イルカ・クジラ ジュニアクラブ ～ 海の世界学習クラブ ～
-----	--------------------	-----	-------------------------------

実施内容	実施結果
------	------

<p>川崎市内の小学4～6年生を対象とした「イルカ・クジラジュニアクラブ～海の世界学習クラブ～」として、四回連続の環境教室を行う。昨年度に続き二年目の活動で、一年目の全回参加者から希望者にジュニアリーダーとして現場のサポートをしてもらい、自ら活動できるリーダー育成も目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 8/4(日) ジュニアリーダー研修会、ワークショップ体験会</li> <li>◇ 10/6(日) 第一回「ねんどでクジラをつくろう&amp;リパークリナーアップ 比べてみよう！川のごみ、海のごみ ～川編～」</li> <li>◇ 10/27(日) 第二回レクチャー「イルカのすむ島からのメッセージ」</li> <li>◇ 11/17(日) 第三回「ビーチクリーンアップ 比べてみよう！川のごみ、海のごみ ～海編～」</li> <li>◇ 12/15(日) 第四回「海の未来のために、まちのぼく・わたしにできることってなんだろう」</li> <li>◇ 2月9日(日)&amp;11日(火祝) ポスター発表会「ぼくたち・わたしたちの伝えたいこと」</li> </ul>	<p>【参加人数】 全回計(のべ) 105名 (うちジュニアクラブ対象者 26名)</p> <p>【リーダー育成】 一年目全参加者 2名、二年目で全参加者 4名、計6名</p> <p>【参加者アンケートから】</p> <p>[満足度] とても満足 91%、満足 9%</p> <p>[コメントから]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回気づきと娘の成長を感じることができる</li> <li>・大人チームの情報交換もとても勉強になった</li> <li>・子どもが楽しそうだった</li> <li>・楽しく学ぶことができた</li> <li>・ゴミ拾いを通して環境について深く考えられる</li> <li>・初めて知ることがたくさんあった</li> <li>・自然や環境について考える良い機会になった</li> <li>・ジュニアリーダーの発表が素晴らしかった</li> <li>・拾ったごみを総合学習に使うと持っていた</li> <li>・子どもたちのポスターがよかった</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

写真	課題と展望
----	-------



今年度より学校でのチラシ配布ができなくなり、対象とする小学 4～6 年生に直接広報できる機会を失ってしまい、参加者を増やすことができなかった。参加者の満足度は高く、内容は評価されているが、間口を広げていく広報の難しさを感じた。

SNS 等での広報をしたところ、二回合計でインプレッション 9761 件と関心は高いことがうかがえる。しかし、オンラインでの広報を川崎市民に絞るのは難しい(もったいない)とも感じた。川崎市民以外から「参加したい」という声もいただいた。

また、四回連続の環境学習教室と最後に発表会を組み合わせ合わせたプログラムには、一定の手応えを感じ、二年間で育ったジュニアリーダーたちの発言力・発信力は素晴らしいものがあった。彼らのチカラを発揮できるような機会、彼らが企画の中核となったアイデアを実現していけるよう、目指していきたいと思う。

## 2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会	事業名	こどものまちミニカワサキ 運営会議、子ども会議、子どもワークショップ
-----	-------------------	-----	------------------------------------

実施内容	実施結果
<p>■運営会議 メンバー おとな 6名、こども 16名、サポーター9名、11回、(4/21、5/19、6/9、6/30、7/21、7/28、9/15、10/6、11/10、11/21、3/1)開催。おとな分科会(1/10)開催。</p> <p>■子ども会議 こどもまちづくりクラブメンバー 25人 5回(7/21、7/28、9/15、10/6、11/10)開催。</p> <p>■子どもワークショップ 参加人数 60組 (一般向けワークショップ 8/4、8/25、準備ワークショップ 9/20、10/11)開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このほか、年度内に各所よりお声がけいただき、講演の機会を得た。 9/5 ミニカフェ(市民活動センター主催)講演。9/12 川崎市立東住吉小学校(中原区)、10/3 川崎市立大戸小学校(中原区)6年生総合の授業で講演。12/13 慶応 SDM×東急総研修で講演。</li> <li>9/25 こどものまち EXPO/全国こどものまち主催者シンポジウム登壇(NPO 法人ミニシティプラス主催)、11/17 こどものまちサミット登壇(田園調布学園大学主催)には、子どもの代表も参加し、全国の他の「こどものまち」と交流、情報交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会議ではまちたんけんミッションを実施。それぞれの目線でまちを観察し、まちってなんだろう？を考えるきっかけづくりをした。川崎市カードを新たに制作し、川崎のまちに暮らしているということを意識してもらう機会となった。今後も継続して活用していく。</li> <li>子どもスタッフの参加者は計 41人で 24校にわたり、きょうだい関係やもともとのお友達関係だけではなく、初めて会うこととの交流の機会となった。</li> <li>子どもワークショップで、「親子」で参加できる「こどものまち」体験行い、子どもの立場、おとなの立場それぞれの意見を交換しあうことで、子どもの権利や、可能性など、当団体の理念を伝える機会となった。</li> <li>若手社会人や大学生がサポーターとして参加するスタイルが定着しはじめ、サポーター昨年度 6名に対して 9名、うち川崎市内からの参加が 7名だった。子どもワークショップとして主催だけでなく、お招きいただいた機会への登壇も増え、ネットワークが広がってきている。</li> </ul>

写真	課題と展望
   	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も長く続けていくことを前提とした活動とするべく、議論を重ね、メンバーの承認を得て、NPO 法人申請について所轄庁協議中(3月末時点)。</li> <li>これまで任意団体としての 7年間の活動を経て、川崎市の多くの部署の方々に企画を知っていただき、支援していただくだけでなく、当該部署の企画に協力することもできた。これからもより積極的に実際のまちづくりの場面に関わって行けるよう工夫していきたい。</li> <li>小学校からの講演依頼や、企業からの問い合わせ、他のこどものまちとの交流など、活動が広がり始めている。子ども達自身がこれらの交流に参加し、世界を広げていく活動にも力を入れていきたい。</li> </ul>

## 2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	ママプラス Largo	事業名	ママプラス Largo 第4回定期演奏会
-----	-------------	-----	----------------------

### 実施内容

### 実施結果

吹奏楽の演奏会  
 ママプラス Largo 第四回定期演奏会  
 ～きらめきと魔法の世界へ～  
 2024年7月14日(日)  
 開場 13:30  
 開演 14:00  
 会場 エポックなかはらホール  
 顧客人数 550人程度

多くのお客様に満足をしていただける結果となった。  
 入場者は、会場キャパ923名に対し、6割程度の来場者数となった。  
 顧客層は、年齢層は幅広く、老若男女問わずであった。  
 アンケートの満足度の9割以上のお客様が満足と回答していただいた。

### 写真

### 課題と展望



課題としては、広告宣伝の強化があり、演奏会団体の認知度向上をはかることがあげられる。  
 また、お客様の声として、演出の際の音が気になり、演奏に集中できないとの声があった。  
 上記のことから、席の住み分けなどの課題があげられた。  
 展望としては、まず、団員の増加をはかり、より多くの曲を演奏し、演出の中身がより一層濃いものを目指す。そのことにより、演奏会や団体の認知度を向上し、SNSなどでの宣伝を強化していくこととする。

## 2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	一般社団法人プラスケア	事業名	暮らしの保健室
-----	-------------	-----	---------

実施内容	実施結果
<p>①2024年4月～3月まで下記の日時、場所で暮らしの保健室を開催しました。</p> <hr/> <p>※暮らしの保健室について 病院に行くまでもない身体や心の悩みをお話したい方をターゲットに医者、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー等のいずれかの医療者が地域の人とお話をする場(医療行為はしない)を開催します。予約なしでの利用料が400円、予約の場合は利用料400円+30分1,000円の個別相談料を頂きます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水木金土曜日：武蔵新城セーズイシイ 23で2人体制で開催。</li> <li>・第3火曜日：溝ノ口 nokutica(高津区下作延1丁目1-7)で1人体制で開催</li> <li>・第4水曜日：グリーンハイム武蔵小杉(中原区下小田中3丁目22-7 富士通SSLグリーンハイム)で2人体制で開催</li> <li>・3か月ごと第4土曜日(4月・7月・10月・1月)：武蔵新城 NAYA(中原区上新城2丁目6-20)にて5人体制で開催</li> </ul> <p>②暮らしの保健室のPRや事業への理解を深めるため10月、11月、12月にイベントを開催しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年4月～2025年2月までに暮らしの保健室を208回(武蔵新城セーズイシイ 179回、溝の口 nokutica 11回、グリーンハイム武蔵小杉 14回、武蔵新城 NAYA 4回)開催しました。相談内容は医療的なことよりも、日常のケアや暮らしのことが圧倒的に多く、また保健室に入室しないまでも、道行く中でスタッフと声を交わす場面も増えました。暮らしの導線上で、市民とのつながりを生み出していった1年となりました。</li> <li>・上記開催日数は昨年度と大きく変わらないにも関わらず、利用者数は923人と、昨年度の同時期(2023年4月～2024年2月)の来室者693名と比較して利用者数が33%増加しました。</li> <li>・暮らしの保健室「市民公開勉強会」を開催し合計55名の参加者を集めました。</li> </ul> <p>10月28日 講師:川崎ワカモノ Lab「まちの自習室から見た川崎の若者とまちの関わり」</p> <p>11月21日 講師:ヴァイオリニスト Rena、ミモザちゃん「人と心を繋ぐ音楽の力と社会的処方」</p> <p>12月11日 講師:秋山正子、日比百合花、コミュニティナースたま「かわさき暮らしの保健室プチサミット」</p>

写真	課題と展望
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課題                     <p>今年度は、かわさき市民活動センターからの助成金の他は、暮らしの保健室に関する助成金を受けることはできませんでした。また、企業と進めていた契約についても締結に至らず、資金面としては厳しい状況が続きました。</p> </li> <li>■展望                     <p>来年度は引き続き、暮らしの保健室の安定した運営を続けるための資金調達を続けると共に、暮らしの保健室の活動を今年度と同様に継続し、また暮らしの保健室の仕組みや社会的処方の考えを広げるために川崎市内を中心とした全国への講演、研修を行います。</p> </li> </ul>

団体名	なかはらミュージカル実行委員会	事業名	第12回なかはらミュージカル
-----	-----------------	-----	----------------

実施内容	実施結果
<p><b>【募 集】</b> 参加者の募集(チラシ制作配布・HPでの告知・SNS など)・参加者説明会</p> <p><b>【準備期間】</b> ワークショップ・配役オーディション・配役発表会・勉強会(テーマ人権について)の開催</p> <p><b>【練 習】</b> 芝居・歌・ダンス、それぞれのプロによる指導・練習(8月～3月) 通し稽古・バンド合わせ・バンド入り通しの実施</p> <p><b>【公 演】</b> 2025年3月8日(土)・9日(日) 2日間 4公演中原市民館 多目的ホール</p> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公演の告知(チラシ制作配布・HPでの告知・SNS など)とチケットの販売</li> <li>・当日の舞台と会場の人員・ボランティアの手配 後援や協賛の申請と依頼</li> <li>・公演準備・各組ゲネプロの実施</li> <li>・公演当日の会場運営</li> <li>・公演後にアンケートの実施(観客・キャスト・保護者)</li> </ul>	<p><b>【参加者】</b> 参加者人数:70人 年代:小学1年生～大人(70代)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者向け歴史勉強会の実施とアンケート実施</li> <li>・公演後のキャスト保護者アンケート 満足度の部分で高い評価いただいた。 キャスト:「仲間づくりの場所として素晴らしかった」 「違う学年の人たちと仲良くなることができ、他に代え難い環境」、など</li> <li>保護者:「日頃一人でいることが多い子が自分に自信を持ち居場所をみつけた」など</li> </ul> <p><b>【公 演】</b> 中原市民館 多目的ホールにて上演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年3月8日(土) 12:00～チーム SAN 公演 ・ 16:00～チーム MOON 公演</li> <li>9日(日) 12:00～チーム MOON 公演 ・ 16:00～チーム SAN 公演</li> </ul> <p><b>【観劇者】</b>・有料観劇者 90%以上(1,100人/総席数 1,200人のうち)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観劇アンケートの実施を行い、作品の評価において 195名中 192名の方々に「満足」「大変満足」の好評価をいただくことができた。</li> <li>・毎年観に来て下さる方々もおり、近所で観る市民ミュージカルとして文化芸術を広め伝えている。</li> </ul>

写真	課題と展望
<p>なかはらミュージカル第12回作品「Smile！」 チーム MOON 公演の様子</p> <p>満員のお客さまにたくさんの拍手をいただいたフィナーレ。会場全体がひとつになった瞬間です。</p> 	<p><b>【事業の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、毎年開催するべく努力しているが、安定した運営・安定した収益を得るための人員不足が否めない状態である。次世代に運営を繋げて行くためにも、強化・安定させていきたい。</li> <li>・本格的なミュージカルとしての質と、大勢のキャストが安全に舞台に立つことができるため、そして若い世代にプロと一緒に仕事ができ育て貰える環境を保持するため、資金集めが大きな課題である。ボランティア集団としての価値を見出し公益性の確保していきながらも、資金安定のために協賛や寄付を集められるよう、また助成金を探すなど努力する。</li> <li>・ありがたいことにチケットの完売が続いているが席数が限られているため、観劇希望者皆さまに五連いただき事ができていない状況がある。今後資金に余裕が出てきたら、エポック中原など席数の多いホールでの公演や、公演を2週にまたがり行かない回数を増やすなど対策を考え、観客席と収入を増やす方法を考えていきたい。</li> <li>・今後も次世代に引き継ぐことを目標に1.地域振興(知る) 2.文化芸術の発展(伝える) 3.市民の居場所づくり(楽しむ)の3つを大切に地に足の着いた着実な運営を心がけていきたいと思えます。</li> </ul>